

1. 調査報告概要表

作成日 平成 21年10月6日

【評価実施概要】

事業所番号	0171300163		
法人名	有限会社 北のゆめ		
事業所名	グループホーム 北のゆめ		
所在地	北広島市稲穂町東10丁目4-17 (電話) 011-376-7700		
評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	平成21年10月2日	評価確定日	平成21年10月12日

【情報提供票より】 (21年 9月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 6月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 16人、非常勤 1人、常勤換算	16.7人

(2) 建物概要

建物構造	木造防火サイディング 造り		
	2階建ての	1~2階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	29,000~52,000円	その他の経費(月額)	光熱水費:20,000円 暖房費:(10-5月)7,000円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1月当たり 35,000 円		

(4) 利用者の概要(9月1日現在)

利用者人数	18名	男性	0名	18名
要介護1	1名	要介護2	6名	
要介護3	5名	要介護4	3名	
要介護5	3名	要支援2	0名	
年齢	平均 86歳	最低	61歳	最高 96歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	きたひろ内科呼吸器科・北進歯科クリニック・恵みのケアサポート(老健)
---------	------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

管理者と職員は毎日の業務の合間をぬって申し送りの他にカンファレンスの時間をつくり、利用者の個別性等について話し合いを重ね、職員間の共通の理解を深め、ケアの向上に取り組んでいる。また、職員間の連携が良好である。介護度の高い利用者にも寄り添い、その人らしくを模索しつつ、看取りの体制を充実したいと医療連携を開始して支援している。災害対策として地域住民の連絡体制が整っている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題であった災害対策については、運営推進会議の開催の充実から、地域の連絡網が作成され改善が見られる。しかし、改善課題の理念の中に、地域密着型の内容が含まれてはいない。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員はユニットのカンファレンスの中で毎日数項目について話し合いを重ね、共通の意義を認識して自己評価に取り組んだ。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2ヶ月ごとに開催し、幅広い分野から出席を頂き、事業所の報告にとどまらず活発に意見交換をしている。特に、行政よりアドバイスをもらいサービスの向上に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族等が面会時に気軽に声かけをし、意見や介護計画について話せるようになっている。家族会が自主的に活動し、事業所と良好な関係が出来ている。話の内容については職員の共有とし運営に活かしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し、地域の住民と関わりを持つように努力をし、日常の散歩やゴミステーションでの挨拶など親しく交流をしている。相談場所としてのPRも玄関前に掲示している。また、災害時の連絡体制が整っている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念は開設時に作成している。地域密着型サービスとしては目標に掲げているが、理念の中に含まれていない。	○	目標に留まらず、理念の中に地域密着型サービスとして定着することが求められる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日のカンファレンスの中で利用者本位に理念の実践について話され、取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、地域住民と関わりを持つことに努力をし、日常の散歩時やゴミステーションでの挨拶など親しく交流をしている。事業所は次第に地域に浸透しつつある。相談に応じるPRを玄関前に掲示している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員はユニットのカンファレンスの時間に自己評価の項目について話し合いを継続的に取り組み、共通に意義を理解し、事業所の現状の課題の把握に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月ごとに開催し、幅広い分野から出席を頂き、事業所の報告のみならず、活発に意見交換をしている。特に行政よりアドバイスを頂き、サービスの向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市内のグループホーム連絡会が定期的開催され、行政担当者の参加がある。また、利用者の個別対応についても連携をもっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	事業所では毎月家族あてに「たより」を発行し、利用者個別にメッセージを添付して発送している。金銭の明細も明らかにして報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等が面会時に気軽に声をかけをし、意見や介護計画についても話せる場を設定している。話の内容については、カンファレンスで職員の共有とし運営に活かしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は極力抑え利用者にダメージがないように配慮している。現在の利用者は女性のみで良好な関係づくりがなされている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は研修に力を注ぎ、テーマを決めて講師を招いた内部研修を定期的に行い、ケアの質の向上を目指している。また、外部の研修にも参加の機会を多くしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム連絡会で職員の研修会を開催し、具体的な課題研修などお互いに良好な関係づくりがなされている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	希望者と家族に見学や話し合いなど充分時間をかけて取り組み、利用に至るまでに相互に馴染めるよう家族と相談している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用開始時に基本情報を丁寧に把握し、本人と共に過ごすことを主眼として、寄り添うことを努力している。利用者本位に生活をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者個別の基本情報を確認し、さらに課題分析概要や分析シートを作成し、意向の把握に努めている。より多く寄り添うことをカンファレンス等で話し合っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日ごろの観察をもとに毎日カンファレンスを行い、家族には面会の時に要望を聞き、利用者ごとの担当者会議で話し合った結果を踏まえて、計画作成担当が作成した計画案を、ケア会議で討議して練り直し、最後に家族に承認を得たうえで実施計画としている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎の見直しを基本に、健康状態の変化、入退院があったときなどには随時見直しを行い、現状に即した介護計画となるようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族や本人の希望により、必要に応じて病院の送迎、訪問診療の利用を行っている。また、玄関に標示を出して地域の介護相談にも応じている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人、家族の希望に基づいて決められているが、実際利用している医療機関は限られている。いずれの医療機関も訪問診療で対応しており、医師と事業所の関係は緊密である。受診情報は逐次家族に伝えている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアを受け入れる体制で、重度化した場合の対応について一部の家族と確認書を交わし、対象家族を逐次拡大している。職員の対応の仕方について「看取りマニュアル」を作成して備えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	理念に「プライドを大切にする」と掲げており、言葉がけは優しく、ていねいに、ゆっくり、わかりやすくを心掛けている。個人情報区画された事務室に保管されており、適切に管理されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	午前中の散歩、お茶、食事、午後のラジオ体操、入浴、趣味活動、おやつなど、基本的なタイムスケジュールをもとに、強制はせず、一人ひとりの希望や状況に合わせた暮らしを支えている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は食事検討委員が作成し、食材購入には、職員とともに時には利用者も同行する。昼食にはチラシ寿司、カレーライス、パン食、どんぶりものなどバラエティーに富んだものを採用し、肉も程よく取り入れている。準備後片付けには利用者も参加して楽しみを共にしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	月、火、木、金を入浴日とし、各人週2回は入浴できるように支援している。入浴を拒否し気の進まない利用者は無理をせず、気分を見計らい、タイミングよく声をかけるなどの工夫、努力をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	各人の希望や能力に合わせて食事の準備、片付け、洗濯物、縫い物などの家事を分担し、ピアノ、書道、手芸、折り紙、壁飾り作成などの趣味を楽しみ、さらにボランティアによる各種演芸などを楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	可能な利用者は、気候のよい時は毎日歩行や車椅子で、遠くあるいは近くと、状態に応じて散歩や日向ぼっこに外出している。時にはイチゴ狩り、花見、紅葉狩りなどの行事を計画して遠出の外出をしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は表玄関もユニットの入り口も鍵をかけていない。利用者の出入りは観察とチャイムで察知している。出かける利用者を止めることはせず、職員が付添い、自然に連れ戻している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署の参加を得て、日中及び夜間の火災を想定した訓練を行っている。地域住民との協力関係が出来ており、訓練には近隣住民も参加する。職員のほかに地域住民の緊急時連絡網が出来ている。近く、スプリンクラーを設置する予定である。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスと個人の嗜好を考慮し、食事検討委員が献立を工夫し、カンファレンスで皆で検討している。咀嚼機能に応じてきざみ、おかゆなどの形にも応じている。食べ残しがあれば記録し、水分摂取は器の数(回数)で概略量を確認している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	真新しい建物で、ゆったりとした、明るく清潔な共有空間が確保されている。大きな時計、壁いっぱいの手作りカレンダー、季節ごとの風物をあしらったペーパークラフトの壁飾りなどで、時刻や季節が明瞭に感じられる工夫が凝らされている。トイレ、洗面所、浴室も十分な広さと清潔さが保たれている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の雰囲気は利用者の状態によって異なるが、多くはタンス、椅子、仏壇などが配置され、人形、置物、壁飾りなどで生活感が豊かである。必要な人には職員がよく手を入れてあたたかさを保っている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(様式1)を添付すること。